

平成29年度第1回公立高等学校配置計画  
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁新しい高校づくり推進室

平成29年度第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

会場	開催日	開催時間	開催場所
空知南	平成29年4月25日(火)	10時00分～12時10分	空知合同庁舎
空知北	平成29年4月25日(火)	14時30分～16時40分	深川市経済センター
石狩	平成29年4月27日(木)	18時30分～20時05分	KKRホテル札幌
後志	平成29年4月21日(金)	13時30分～15時40分	後志合同庁舎
胆振西	平成29年5月8日(月)	14時30分～16時40分	むろらん広域センタービル
胆振東	平成29年5月8日(月)	9時50分～12時00分	苫小牧市民会館
日高	平成29年5月12日(金)	13時00分～15時10分	日高合同庁舎
渡島	平成29年4月24日(月)	14時15分～16時25分	渡島合同庁舎
檜山	平成29年5月8日(月)	13時00分～15時10分	檜山合同庁舎
上川南	平成29年4月24日(月)	15時00分～17時10分	上川合同庁舎
上川北	平成29年4月24日(月)	10時00分～12時10分	名寄市駅前交流プラザ「よろーな」
留萌	平成29年4月21日(金)	14時50分～17時00分	留萌合同庁舎
宗谷	平成29年4月19日(水)	11時15分～13時25分	稚内総合文化センター
林-ツ中	平成29年4月26日(水)	10時00分～12時10分	北見市民会館
林-ツ東	平成29年4月25日(火)	14時30分～16時40分	オホーツク合同庁舎
林-ツ西	平成29年4月26日(水)	15時00分～17時10分	湧別町文化センター「さざ波」
十勝	平成29年4月22日(土)	10時00分～12時10分	ホテル日航ノースランド帯広
釧路	平成29年5月12日(金)	13時30分～15時40分	釧路センチュリーキャッスルホテル
根室	平成29年4月26日(水)	14時00分～16時10分	中標津町役場

平成29年度第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 参加者数一覧

会場 (学区)	参加者									計 D(A+B+C)	傍聴者 E	合計 F(D+E)	アンケート 提出者
	行政 関係者 A	学校関係者			計 B	P T A 関係者			計 C				
		小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校					
空知南	15	4	9	14	27	1	4	8	13	55	8	63	37
空知北	23	3	12	9	24	2	6	5	13	60	5	65	27
石狩	8	0	11	47	58	0	12	11	23	89	11	100	31
後志	24	6	15	18	39	1	5	5	11	74	4	78	35
胆振西	8	5	6	12	23	2	3	2	7	38	8	46	29
胆振東	9	3	5	14	22	0	0	1	1	32	11	43	16
日高	7	5	6	7	18	3	3	4	10	35	2	37	25
渡島	16	11	10	23	44	2	5	5	12	72	8	80	41
檜山	7	6	7	4	17	2	3	1	6	30	8	38	28
上川南	17	10	15	23	48	0	3	5	8	73	5	78	41
上川北	9	2	8	8	18	1	0	4	5	32	4	36	17
留萌	16	8	8	5	21	2	6	5	13	50	7	57	36
宗谷	9	10	10	8	28	1	1	1	3	40	1	41	32
オホーツク中	18	2	6	13	21	2	3	8	13	52	3	55	15
オホーツク東	7	1	5	7	13	1	3	6	10	30	2	32	22
オホーツク西	10	4	9	5	18	0	2	4	6	34	3	37	25
十勝	21	16	17	20	53	10	15	8	33	107	33	140	39
釧路	10	8	6	14	28	2	5	10	17	55	13	68	35
根室	10	5	5	7	17	2	1	3	6	33	4	37	22
合計	244	109	170	258	537	34	80	96	210	991	140	1,131	553

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① より特色ある高校づくりと、生徒たちの選択の幅の確保をお願いしたい。	<p>○ 社会の変化や生徒の多様な学習ニーズ、専門的な知識・技能の習得などに対応するため、総合学科や全日制普通科単位制などの新しいタイプの学校を設置するとともに、職業学科の学科転換を行うなどして、特色ある学校づくりに取り組みます。</p> <p>○ これまでの施策や各高校の取組の成果と課題、国の動向等を踏まえて、社会の変化に対応した高校教育を推進します。</p> <p>○ 地域の発展に主体的に貢献できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育課程を編成するなど、地域の特性を生かした学校づくりに取り組みます。</p> <p>○ 今後とも、生徒の多様な学習ニーズに応え、学校選択幅の拡大を図るため、新しいタイプの学校のそれぞれの特色を踏まえながら、地域特性を生かし、これまで以上に個性あふれる高校づくりとなるよう取り組みます。</p> <p>○ 地域を支える人材を、教育、行政、地域が一体となって育てる「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」に取り組んでおり、事業の成果等を広く全道に発信し、北海道の将来を支える若者を育成する取組の一層の充実努めます。</p>
② 生徒の将来にどう生かせるのかを具体的に検討し、魅力ある特色を作っていたきたい。	
③ さらに魅力ある学校づくりや地域の特性を生かした学校づくりをお願いする。	
④ 地域の実情に合った高校づくりが進められることを望む。	
⑤ 社会性の伸長など、将来的な子どもたちのことを考えてほしい。	
⑥ ふるさとキャリア教育は、生徒・児童一人一人がキャリアデザインやライフプランを考える上で非常に重要である。	

■ 新しい高校づくりなどの推進	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【推進・充実】</b></p> <p>① 生徒の希望に沿い、多様な進路選択が可能な学校づくりが必要と考える。</p> <p>② 新しいタイプの高校は、普通の高校と差別化を図って特色ある教育を大胆にしていければよい。</p> <p>③ いろいろなタイプの高校を選べるのは良いこと。高校の個性は必要。</p> <p>④ 多様なニーズに応える、新しいタイプの学校づくりが必要である。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望等に応じて普通教科や専門教科から必要な科目を選択して学習できる総合学科</li> <li>・進路希望等に応じて普通教科を中心に必要な科目を選択して学習できる全日制普通科単位制</li> <li>・進路希望等に応じて普通教科のほか専門教科においても必要な科目を選択して学習できる全日制専門学科単位制</li> <li>・まとまりのある分野の科目群を選択して学習できる普通科フィールド制</li> <li>・6年間の計画的・継続的な教育活動を行う中高一貫教育</li> </ul> <p>の新しいタイプの学校の設置・導入に努めます。</p> <p>○ 新しいタイプの学校において、それぞれのタイプの趣旨を生かし、具体的な教育目標を立て、その実現に向けて創意工夫した特色のある教育活動を展開しています。</p> <p>○ 今後とも、生徒の多様な学習ニーズに応え、学校選択幅の拡大を図るため、新しいタイプの学校のそれぞれの特色を踏まえながら、地域の特色を生かして、これまで以上に個性あふれる高校づくりとなる</p>

	よう取り組みます。
<p><b>【成果と課題】</b></p> <p>⑤ 新しいタイプの高校について、その成果と課題を詳細に検証した上で広く情報発信するべき。</p> <p>⑥ 新しいタイプの高校づくりの推進について、生徒のニーズはどうか、欠員はどうかということも含め成果を検証してほしい。</p>	<p>○ 新しいタイプの学校を含めた、指針に基づく施策の成果と課題について検証を行い、平成28年10月に『「新たな高校教育に関する指針」検証結果報告書』を取りまとめ、道教委ホームページに掲載しています。</p> <p>新しいタイプの学校における主な成果や課題については、次のとおりです。</p> <p>○ 総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・各高校において、総合学科の趣旨を踏まえるとともに、地域に根ざした特色ある教育活動が推進されていますが、郡部の総合学科では中学校卒業生数の減少などから小規模化が進んでおり、系列の見直しを行うなど、教育課程の工夫により生徒の多様な学習ニーズに対応している状況があります。</li> </ul> <p>○ 全日制普通科単位制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・望ましい規模を下回っている高校も見られ、活力ある教育活動を維持する観点からも学級数の維持が課題となっています。</li> </ul> <p>○ 普通科フィールド制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・校長からは「フィールド制を対象とした教員の加配がないことから、開設できる科目数に限りがあり、他の普通科高校との差別化を図ることが難しい」との回答も多く、当初の目的であった普通科高校の特色づくりには、必ずしも結びついていない状況があります。</li> </ul> <p>○ 中高一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型中高一貫教育校を卒業した生徒の大学進学率や無業の生徒の比率については、大きな変動はありませんが、一体型については大学進学率が上昇しています。</li> <li>・中学校卒業生数の減少などにより、高校の1学年の学級数が1学級となった高校においては、教員数の減少により中学校と連携した教育活動が十分に行えないなどの理由から、地元市町村と協議の上、中高一貫教育を終了した地域もあります。</li> </ul>
<p><b>【広報・周知】</b></p> <p>⑦ 単位制、フィールド制など、新しいタイプの高校の特徴がもう少し具体的にわかる工夫をお願いしたい。</p> <p>⑧ 各学校は地域社会と連携・協働して、子どもやその保護者、地域の方々に総合学科等の魅力を十分に伝えられるよう一層工夫する必要がある。</p> <p>⑨ 魅力のある高校づくりや、その特色をもっと地元の中学校及び小学校のPTAへアピールして欲しい。学区外へ流出する生徒の減少にもつながっていくのではないかと。</p> <p>⑩ 各高校でのPRや説明がとてども丁寧で分かりやすくなってきていると数年前感じており、生徒の進路選択の上でもあ</p>	<p>○ 毎年度、新しいタイプの学校を紹介したパンフレットを作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配付するとともに、道教委のホームページに掲載しています。</p> <p>○ また、道教委の広報誌「ほっとネット」を活用し、より多くの道民の方々に、新しいタイプの学校の特色等を周知しています。</p> <p>○ 毎年度、新しいタイプの学校の教育内容を紹介したビデオを作成し、道教委のホームページに掲載するとともに、ビデオを紹介するチラシを市町村教育委員会や中学校へ配付しています。</p> <p>○ 第1回の地域別検討協議会では、学区内の高校の特色ある教育活動や取組を紹介する資料を配付し、PRに努めています。</p>

<p>りがたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配付のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。</li> <li>○ 今後とも、中学生や保護者の方々が、新しいタイプの学校の特色等を一層理解できるよう、積極的な情報提供に努めます。</li> </ul>
<p><b>【設置・導入】</b> ⑪ 中学生にとって多様な選択を確実に保証する観点から、新しいタイプの学校を増やしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しいタイプの学校については、地域からの要望等を伺いながら、中学校卒業生数、生徒の進路動向、学校・学科の配置状況等を考慮しながら、設置を進めます。</li> </ul>
<p>⑫ 新しいタイプの学校の導入時には、保護者、教職員、小学生を含めた子どもたちに対し、どのようになっていくのか十分に周知されることが重要であると考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「新たな高校教育に関する指針」に基づき、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に対応し、学校選択幅の拡大を図るため、地域の意見を伺いながら、多くの通学区域において、総合学科や全日制普通科単位制などの新しいタイプの学校づくりに努めます。</li> </ul>

<p><b>■ 地域キャンパス校</b></p>	
<p><b>【推進・充実】</b> ① 地域キャンパス校を存続させる観点からも、必要な条件整備を図っていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域キャンパス校として、センター校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図ります。</li> </ul>
<p>② 地域キャンパス校のあり方について、小規模校に配慮した施策を今後もお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域キャンパス校においては、センター校からの出張授業のほか、センター校との間で生徒会の交流や部活動の合同実施、長期休業期間中におけるセンター校の進学講座への参加など、両校が連携した教育活動を行うなどして、教育課程の充実にも努めています。</li> </ul>
<p>③ 地域にとって高校はなくてはならないものであり、地域キャンパス校への期待がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域キャンパス校の教育活動の充実を図るため、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・講習や生徒間交流、教員研修等での遠隔システムの積極的な活用</li> <li>・学校設定科目の開設など、特色ある教育活動の一層の推進</li> <li>・センター校や他の地域キャンパス校、近隣校等との学校間連携の促進</li> <li>・地域の教育資源や小中学校等、地域との連携の充実</li> <li>・学校の魅力の発信</li> </ul>           などの取組を推進します。         </li> </ul>
<p><b>【教職員の配置】</b> ④ 少子化による学級減は仕方がない部分もあるが、できるだけ先生の数を配置していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域キャンパス校に対しては、道単独での教員加配を行うとともに、センター校からの出張授業などにより教育環境の充実にも努めています。</li> </ul>
<p>⑤ 地域キャンパス校でも、想定通りにセンター校との連携による専門性の高い教育が実施できていないケースがあると思うので、対策を講じてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域キャンパス校とセンター校の取組について、毎年度成果や課題を調査し、把握した課題については速やかに対処するとともに、地域キャンパス校・センター校連携研究協議会において、情報交換や研究協議を行うなど、支援の充実にも努めています。</li> <li>○ 意欲のある管理職やベテラン教員、ミドルリーダーを戦略的に配置するなど、教員配置の充実を図ります。</li> <li>○ 今後とも、生徒の学力向上や進路希望の実現に向</li> </ul>

	けた取組を充実し、地域キャンパス校の教育環境の維持向上に努めます。
<p><b>【遠隔授業】</b></p> <p>⑥ 生徒が少ないのであれば、ICTを使った遠隔授業も利用し学力向上と向学心を向上させることが重要だと思う。</p>	<p>○ 平成25年度から4年間、離島の高校や小規模校の教育水準の維持・向上を図るため、映像や音声を同時双方向で配信できるシステムを活用した遠隔授業における単位認定の在り方等の研究開発に取り組みました。</p> <p>また、平成29年度から新たに4年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでいます。</p> <p>○ 国においては、本道の研究開発の成果等も踏まえ、平成27年4月に文部科学省令の改正を行い、遠隔授業の単位認定を可能としたところであり、今後とも、生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実に向けた取組を進めます。</p>

■ 小規模校への支援	
<p><b>【推進・充実】</b></p> <p>① 地域の小規模な学校について、指導体制の充実を含めた配置についての支援をお願いしたい。都市部と違い、地域から他に通学できない子どもがたくさんいる。</p>	<p>○ 小規模校において、確かな学力や職業観・勤労観、地域産業を担う実践的な能力が育まれるよう、学力向上や環境教育などの研究指定に加え、「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」を実施し、その成果の普及を図っているほか、1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</p>
<p>② 今後、小規模高校同士による連携を工夫していく必要がある。</p>	<p>○ 近隣の道立高校や特別支援学校が相互に教員を派遣し、英語や数学の少人数指導により教育課程の充実を図る道立学校間連携にも取り組むなど、小規模校においても生徒の多様な学習ニーズに対応できる教育環境の確保に努めます。</p>
<p>③ 間口が小さい学校では、総合学科は厳しい状況であると考ええる。</p>	<p>○ 小規模の総合学科校では、学級数が減少しても生徒の多様な学習ニーズに対応するため、教員配置の工夫や、外部講師の効果的な活用を行うとともに、地域の特性や生徒の実態等を踏まえた系列や開設科目の見直しを行うなど、教育環境の改善・充実に取り組んでいます。</p> <p>○ 小規模となった総合学科等における教育活動の改善・充実を図るため、平成25年度から「小規模総合学科等の新たな魅力づくり推進事業」を実施しており、確かな学力の育成等に向けた指導方法の改善のための研修や、地域の自然や産業等の教育資源を活用した取組を行っています。</p>

■ 高校配置計画の策定	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【基本的な考え方】</b></p> <p>① 広域性、通学状況を考慮した、保護者、地域、何よりも生徒の立場に立った計画の策定を望む。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p>
<p>② 学校は規模ではなく、生徒や地域にとって、どれだけ必要な学校であるかを考える必要がある。</p>	<p>○ 中学校卒業者数が減少する中、活力ある教育活動</p>

<p>③ 倍率の低い高校は再編すべき。義務教育とは違う。子ども・保護者は近いからではなく、将来を考えて高校を選ぶ。</p>	<p>を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、地域ごとの特性や実情を十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>④ 学習環境、道の経済、地域の希望、学校の希少性を総合的に判断してほしい。一つの通学圏内で「普通」「工業」「農業」「商業」等を選べる状況を維持してほしい。</p>	
<p>⑤ 「指針」に基づく適確な定員調整を進めていただきたい。</p>	
<p>⑥ 生徒数が減少することにより再編や調整が行われるのは、やむを得ない。教育水準を維持するためにも必要なこと。</p>	
<p>⑦ 少子化に歯止めが効かない状況の中、より高度な学習内容を希望する等の状況から、定員割れが著しい地方校が統廃合されることもやむを得ない部分もあると思う。</p>	
<p><b>【策定方法・示し方】</b> ⑧ 協議会での意見を大切に、学校の特色に十分配慮した計画案の作成を希望します。</p>	
<p>⑨ 欠員と定員の状況を考慮して計画を策定すべき。</p>	
<p>⑩ 再編後であっても、学校選択の多様性を維持できる配置計画をお願いします。</p>	<p>○ 配置計画の策定にあたっては、地域別検討協議会において、3年間の具体的な計画と、その後の4年間の将来的な配置の見直しをお示しし、地域の方々の御意見を伺っているほか、地元の見守り会などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただいています。</p> <p>○ 中学校卒業生数が減少する中において、特色ある様々な教育活動の充実や多様な学習ニーズに対応した幅広い教育課程の編成・実施を行う必要があります。</p> <p>○ 今後とも、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、新しいタイプの学校づくりや再編整備など、適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>⑪ 生徒の将来の進路先を考えると、より多様な選択肢が用意されることで、地域の人材育成にもつながるものと考えられる。できるだけ現状から減ることのないようにすることが必要。</p>	
<p><b>【再編等（地域の実情等）】</b> ⑫ 地域の子どもたちが地域の高校で学ぶことができる計画であってほしい。地域の発展や活性化に寄与する視点を持った高校であり、そのための計画であって欲しい。</p>	<p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で多様な地域から形成される本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ 特に郡部においては、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いことや、地理的状況等から再編が困難である場合があることなど、都市部と異なる状況があり、また、人口減少が及ぼす影響の度合いも異なることから、その実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ 再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域キャンパス校とし、教育環境の充実に努めています。</p> <p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを総合的に勘案し、地域の実情を十分考慮しながら、検討を進めます。</p>
<p>⑬ 高校は地方創生の要であり、地方に高校が少なくなることの影響を重視して再編計画を作成してほしい。</p>	
<p>⑭ 地方の学校には地方の学校の存在価値が必ずあると思います。人が少ないからと調整を図るより、学区全体を調整し、地方の小規模校に中学生が流れるような仕組み・考え方も必要と考える。</p>	
<p>⑮ 配置計画については、人数により間口を決めるのではなく、地域の実情を踏まえ猶予をほしい。</p>	
<p>⑯ 過疎地域の実情に合わせた配置計画、高校と大学の接続を十分考慮した再編をしていただきたい。</p>	
<p>⑰ 地域の状況、特色、ニーズ等の実態を十分に考慮しながら計画の策定を進めていただきたい。</p>	



<p>⑱ 都市部と郡部は全く別物。教育水準に差はないものの、通学時間等、生徒の生活を第一に考えて下さい。</p>	
<p>⑲ 生徒数のみならず、地域の実態を考慮し、生徒・保護者に負担（時間・費用）をかけることなく、都市部の生徒と同様に学習できる環境にしてほしい。</p>	
<p>⑳ 地域の実情よりも進学する生徒・保護者の意向を尊重すべき。</p>	
<p><b>【再編等（小規模校の役割）】</b> ㉑ 2間口以上と以下と区別して再編を考えて、町村を交えた学校活動を考えていただきたい。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や、地域と連携した取組など特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。しかしながら、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場として役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p>
<p>㉒ 地域の声に耳を傾け、地元にとって大切な存在である高校は、仮に1間口になっても残すべきと考える。</p>	
<p>㉓ 本道の広域分散という特色から、欠員状況のみで議論すべきではなく、広域に小規模校を分散的に配置しなければならないと思う。今後、J R等の交通状況の変化も予想される中で、安易に募集停止に追い込むべきではない。</p>	<p>○ 道教委としては、中卒者数の減少が引き続き中で、一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開することが必要と考えていますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域キャンパス校として教育環境の維持・充実に努めています。</p>
<p>㉔ これからの少子化に伴い、学級減はいたしかたないと思う。小規模校については各高校の特色を生かし、生徒確保の取組を一層進めて行ってほしい。</p>	<p>○ なお、小規模校では、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう、相互に教員を派遣し教育課程の充実を図る「道立学校間連携」の取組や、小規模となった新しいタイプの学校において、「小規模総合学科等の新たな魅力づくり推進事業」を実施し、地域の自然や人材を活用した取組を積極的に進めるなど、教育環境の充実に努めています。</p>
<p>㉕ 小規模校の存続は管内の各地域の活性化にとっても大切ですので、配置計画の優先順位上位にすべき。</p>	<p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に貢献できる人材の育成に向け、地域の方々の御意見などを十分伺いながら、適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>㉖ 2学級以下の小規模校であっても、地域にとっては大事な高校。高校があることで、町の活気も変わってくるので、財政的に考えると厳しいかもしれないが、残してほしい。</p>	
<p>㉗ 小規模校の定員割れの高校の再編や合併を促してほしい。</p>	
<p><b>【市町村立・私学・高専との関係】</b> ㉘ 道立高校と市立高校の規模、間口数に十分配慮してほしい。市町村の教育委員会との調整を求めたい。</p>	<p>○ 高校配置計画は、道立高校だけではなく市町村立高校を含めた公立高校全体の配置計画であることから、その検討に当たっては、市町村立高校の設置者である市町村とも十分協議を行いながら、適切な高校配置計画になるよう努めます。</p>
<p>㉙ 特色ある高校づくりに努めている私立高校は、公立だけではできない特色をもっており、公私共存はしっかりと守らなければならないと考える。</p>	<p>○ 私学所在学区にあっては、私立高校の配置状況に配慮し、公立高校において、中学校卒業後者の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行うこととしています。</p>
<p>㉚ 私立の役割は大きいものがあり、公立と私立の両立を図ることが大切。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、北海道公私立高等学校協議会や、私学所在学区ごとに開催している地域別公私立高等学校協議会などの場を通じて十分協議を行いながら、適切な高校配置計画になるよう努めます。</p>
<p>㉛ 公私の比率をかんがみ、慎重な公立の再編を願います。</p>	
<p>㉜ 高等専門学校では定員調整が行われておらず、公立高等専門学校の定数調整について働きかけをお願いしたい。</p>	<p>○ 高等専門学校の定員については、今後とも中学校</p>

	<p>卒業者数の減少を踏まえた定員調整に配慮していただくよう、国等に対し要望していきます。</p> <p>○ 今後とも、道立高校だけではなく、市町村立高校の状況や私立高校の配置状況にも配慮しながら、適切な高校配置計画になるよう努めます。</p>
<p>③③ 公立高校の2次募集制度は必要だと思っているが、入学手続きを完了した私立高校合格者は道立高校合格者と同様に、出願を認めない様、入試制度を検討いただきたい。</p>	<p>○ 公立高校の入学者選抜については、実施要項に基づき行っており、生徒の進学への影響を十分考慮するとともに、保護者の意向なども踏まえながら、引き続き、検討していきます。</p>
<p><b>【学級定員の引き下げ】</b></p> <p>③④ 財源の問題もあることは承知していますが、地域に根ざした高校の維持、定数人数の緩和等を考えていくことも大切だと思います。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えています。</p>
<p>③⑤ 国との関係もあり、難しいと思うが、地域の特性、人口により1学級の定員に自由度があるべき。</p>	<p>○ これまでも、国の加配定数を活用し、少人数によるきめ細かな指導に努めてきており、今後も、少人数学級や少人数指導の推進など、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。</p>
<p>③⑥ 機械的な間口減をしないように、地域の高校を生かせるように、定数の見直しをしていただきたい。</p>	
<p>③⑦ 学級定員を40人から35人へ変更してほしい。道独自の取り組みを目指して、これからの人口減に対応できる策を練ってはどうか。</p>	
<p>③⑧ 少子化が顕著になって久しく、財源的な課題があるのはわかるが、35人又は30人学級への制度変更がなされてもよいのではないか。</p>	
<p><b>【望ましい学校規模】</b></p> <p>③⑨ 今後、中学校卒業者数が大幅に減少しますが、学級調整では限界があることから、できる限り8間口を維持することを基本として、再編を進めてほしい。</p>	<p>○ 高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、新しいタイプの学校づくりや再編整備など適切な高校配置になるよう努めます。</p>
<p>④⑩ 望ましい学校規模4～8学級は、実態に合わない。各学校の特色を大切にすることの方が大切なのではないか。</p>	<p>○ 学校規模については、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる</li> <li>・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる</li> <li>・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる</li> <li>・生徒会活動や部活動が活性化し充実する</li> </ul> <p>などの考え方から、1学年4～8学級を望ましい規模と考えています。</p>
<p>④⑪ 子どもたちが自ら住む地域で高校に進学できるということは大切であり、規模のみで考えるべきではない。</p>	<p>今後中学校卒業者数が大幅に減少することが見込まれることから、地域や学校の実情等を考慮しながら高校の再編整備を進める必要があります。</p>
<p>④⑫ 一律に適正規模に近づけるのではなく、地域に根ざした、地域の子供たちを育てられるような小規模な学校も残していただきたい。</p>	

<p><b>■ 新しい指針の作成</b></p>	
<p>① 全道の小規模校を基本的に残すことを考えていただきたい。地域キャンパス校の基準「20名未満」を「10名未満」に見直し願いたい。</p>	<p>○ 広域分散型の本道において、人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・充実させることは重要な課題であり、総合学科の設置など多様な選択を可能にするための教育制度をはじめ、地域キャンパス校の</p>

② 地域に高校が存在するという事は、地域の未来を担う人を育てるという意味ですごく良いこと。地域の宝である高校を残していくために、力を尽くしてほしい。	再編基準の人数要件など、教育水準の維持・向上を図る高校の配置等において、新たな対応や改善が必要と考え、新しい指針を作成することとしました。
③ 従来の高校をどの程度残していくのか、10年、20年後を見据えた計画がないように感じる。未来は変わるので予定通りにはいかないものだが、今の時点で考えられるビジョンを示すことが必要ではないか。	○ 作成に当たっては、平成28年12月に設置した有識者からなる検討会議において、「活力と魅力のある高校づくり」「経済社会の発展に寄与する人材を育む高校づくり」「地域と繋がる高校づくり」の3点を中心に、中・高生やその保護者などを対象に実施した高校進学などに関するアンケート調査も参考にしながら、議論いただいています。
④ 現在検討中の指針に期待する。様々な制約の中で、より良い方策を示してほしい。	○ 今後は更に、地域からの要望などを踏まえ、議論を深めていくとともに、関係団体や広く道民の皆様のご意見を伺うことができるよう、本年9月頃には素案をお示しし、パブリックコメントや意見を聞く会を開催した上で、来年度末を目途に新しい指針を作成します。
⑤ 新しい指針の決定前にパブリックコメントや協議会を開催して、平成32年度以降の考え方について詳しく説明してほしい。	

■ 職業学科の充実	
<b>【職業学科の配置の在り方】</b> ① 職業学科は、各学科で特色ある授業展開をしており、それぞれの学科の目指す生徒像は異なっているため、中卒者数の減がすぐ間口減とならないようにしてほしい。	○ 職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。
② 職業学科の高校では、市町村と一体となったものづくりや販売など、特色ある取り組みを行ってほしい。	○ こうした職業学科においては、地域の方々の要望や地域産業の特性、各学校の実情などを考慮し、これまで職業学科の再編整備や学科転換を行ってききましたが、中卒者の減少が引き続き見込まれることから、職業学科を含めた高校の定員調整や再編について慎重に検討してまいりたいと考えています。
③ 職業学科の学級減に当たっては、相当慎重に検討していただきたい。複数の学科が一緒になったら、専門性が薄くなり、子どもたちの進路にも影響を与えると思われる。	○ 生徒の多様な学習ニーズに対応して、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。

■ 高校における特別支援教育の取組	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<b>【高校における特別支援教育の取組】</b> ① 普通高校等における特別支援教育の充実を図ってほしい。	○ 障がいのある生徒の道立高校への受入れについては、高校の目標を達成するための一定の学力があること、日常の学校生活を送る上で大きな支障がないことなどを踏まえて、校長が判断しています。 入学選抜における特別な配慮や入学後の施設・設備の整備などについて、生徒、保護者、中学校と事前に十分相談をして、対応しています。
② 高等学校における通級指導教室の実施について、道教委では平成30年度から行うと聞いているが、取組について情報をいただきたい。	○ 特別支援学校との連携や校内研修等を通じて、高校の教員が障がいに対する理解を深めるとともに、障がいの特性に応じた教科指導などを行えるよう、個別的教育支援計画や指導計画の作成とそれに基づく個別指導等の工夫や、「特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業」等の積極的な活用により、高校に入学した障がいのある全ての生徒への教育の

	<p>充実に努めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ また、平成30年度から高校における通級による指導が円滑に実施できるよう、国の指定を受け通級に関する研究を行っている3校の成果や課題を分析するとともに、他県の先行事例も参考にしながら、本道において通級指導を実施する学校の配置や、学校における具体的な指導の実施形態などについて、検討を進めます。</li> <li>○ 国に対しては、道立高校における特別の教育課程編成の導入、定数措置の改善、通級指導教室の設置など制度的な整備、特別支援教育支援員の配置に要する財源措置の充実にについて、要望しています。</li> <li>○ 高等学校における特別支援教育の在り方を検討するため、外部有識者等で構成する検討委員会を設置し、地域特性を踏まえたインクルーシブ教育システムの構築や、通級指導教室及び特別支援学級の必要性とその役割などについて、平成29年3月に意見をとりまとめました。        今後は、こうした検討の状況などを踏まえ、高等学校における特別支援教育の一層の充実に取り組みます。</li> </ul>
--	--

<b>■ 通学費等への支援</b>	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【遠距離通学費等補助制度の見直し】</b></p> <p>① 通学費の補助等、再編等によって生徒が夢をあきらめることのないよう就学支援の充実をお願いする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遠距離通学費等補助制度は、平成20年度以降の道立高校の募集停止に伴い、地元から高校がなくなり遠距離通学等となる場合において、通学費や下宿費等に係る経済的負担を軽減し、生徒の修学機会を確保することを目的に激変緩和措置として創設したところであり、従前から高校のない市町村に居住する生徒との均衡などを考慮し、補助期間については募集停止後5年間としています。</li> <li>○ 補助額については、平成21年度までは通学費等の月額実費負担額が13,000円を超える額を補助していましたが、保護者の負担軽減のため、平成22年度からは10,000円を超える額を補助しています。</li> <li>○ なお、北海道高等学校奨学会が実施する奨学金制度では、道立高校の募集停止により通学区域内の他の高校に修学する者を対象として、期限を設けずに奨学金の上限額の引き上げを行っています。          こうした制度についても一層の周知を図り、修学機会の確保に努めます。</li> </ul>
<p>② 現行の補助制度では補助期間が募集停止後5年間となっているが、結局はその地域での子育てが困難となり、地域の衰退を加速することとなるので、制度をさらに充実させるべき。</p>	

<b>■ その他</b>	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【地域への説明等】</b></p> <p>① 高校配置は地域社会への影響が大きいので、もっと広く多くの人で議論し地域の方々に問題意識を持ってもらう取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</li> <li>○ 第1回目の協議会では入学者選抜における入学状況、生徒の進路動向、今後の中学校卒業者の見込みなどを説明し、第2回目では計画案の考え方などについて説明し、地域の方々から御意見を伺って</li> </ul>
<p>② 地域のPTAや地元企業、教員からも広く意見を聞いて貰いたい。</p>	

	<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出向くなどして、道教委の考え方について説明を行っています。 今後とも、地域の方々の御意見などを伺いながら、検討を進めます。</li> </ul>
<p><b>【地域別検討協議会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 平日の日中は厳しい。できれば夜間に開催してほしい。</li> <li>④ 平日では日常業務により出席することが困難な時もあるので、土曜日等に開催してほしい。</li> <li>⑤ 休日ではなく、平日に開催してほしい。</li> <li>⑥ P T Aの参加を促進する視点から、土曜開催は有効であると思うが、夜間開催は遠方からの参加を考えると難しい。</li> <li>⑦ 開催場所について、管内の中間地点での開催が望ましい。</li> <li>⑧ P T Aの役員会のことを考えると4月中の開催がいい。5月上旬でもかまわない。</li> <li>⑨ 小学校関係者からの参加については、今後も継続してほしい。</li> <li>⑩ 小学校関係者の参加はいらぬのではないかと。中学校、高校で良いと思う。</li> <li>⑪ P T Aの出席者について、事前に質問を取りまとめる方法に変更した事は、とても良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ P T A関係者の中には、新年度から新たに役職に就かれた方も多いため、全体会の前に高校配置計画策定の基本的な考え方や、特色ある高校づくりなどについて説明を行い、理解を深めていただくため、全体会に先がけてP T A分科会を設けています。</li> <li>○ 今回の協議会では、いただいた意見やアンケート等を踏まえ、昨年度と同様に小学校関係者を参加対象者としたほか、開催日時については、土曜及び夜間開催をそれぞれ1会場で実施しました。</li> <li>○ また、P T A関係者からの要望をふまえ、資料の内容などについて意見や質問がある場合は、事前に意見シートを提出いただくことにしました。</li> <li>○ 今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、会場でいただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。</li> </ul>